

哀歌

1

2

3

4

5

第 1 章

あ あ、むかしは、民の満ちみちていたこの都、国々の民のうちで大いなる者であったこの町、今は寂しいさまで座し、やもめのようになった。もろもろの町のうちで女王であった者、今は奴隷となった。

2 これは夜もすがらいたく泣き悲しみ、そのほおには涙が流れている。そのすべての愛する者のうちには、これを慰める者はひとりもなく、そのすべての友はこれにそむいて、その敵となった。

3 ユダは悩みのゆえに、また激しい苦役のゆえに、のがれて行って、もろもろの国民のうちに住んでいるが、安息を得ず、これを追う者がみな追いついてみると、悩みのうちにあった。

4 シオンの道は祭に上ってくる者のないために悲しみ、その門はことごとく荒れ、その祭司たちは嘆き、そのおとめたちは引かれて行き、シオンはみずからいたく苦しむ。

5 そのあだはかしらとなり、その敵は栄えている。そのとがが多いので、主がこれを悩まされたからである。その幼な子たちは捕われて、あだの前に行った。

6 シオンの娘の栄華はことごとく彼女を離れ去り、その君たちは牧草を得ない、しかのようになり、自分を追う者の前に力なく逃げ去った。

7 エルサレムはその悩みと苦しみの日、昔から持っていたもろもろの宝を思い出す。その民があだの手に陥り、だれもこれを助ける者のない時、あだはこれを見て、その滅びをあざ笑った。

8 エルサレムは、はなはだしく罪を犯したので、汚れたものとなった。これを尊んだ者も皆その裸を見たので、これを卑しめる。これもまたみずから嘆き、顔をそむける。

9 その汚れはその衣のすそにあり、これはその終りを思わなかった。それゆえ、これは驚くばかりに落ちぶれ、これを慰める者はひとりもない。「主よ、わが悩みを顧みてください、敵は勝ち誇っていますから」。

10 敵は手を伸べて、その財宝をことごとく奪った。あなたがさきに異邦人らはあなたの公会に、はいってはいならないと命じられたのに、彼らがその聖所にはいるのをシオンは見た。

11 その民はみな嘆いて食物を求め、その命をささえるために、財宝を食物にかえた。「主よ、みそなわして、わたしの卑しめられるのを顧みてください」。

12 「すべて道行く人よ、あなたがたはなんとも思わないのか。主がその激しい怒りの日にわたしを悩まして、わたしにくだされた苦しみのような苦しみが、また世にあるだろうか、尋ねて見よ。

13 主は上から火を送り、それをわが骨にくだし、網を張ってわが足を捕え、わたしを引き返させ、ひねもす心わびしく、かつ病み衰えさせられた。

14 わたしのとがは、つかねられて、一つのくびきとせられ、主のみ手により固く締めら

れて、わたしの首におかれ、わたしの力を衰えさせられた。主はわたしを、立ちむかい得ざる者の手に渡された。

15 主はわたしのうちにあるすべての勇士を無視し、聖会を召集して、わたしを攻め、わが若き人々を打ち滅ぼされた。主は酒ぶねを踏むように、ユダの娘なるおとめを踏みつけられた。

16 このために、わたしは泣き悲しみ、わたしの目は涙であふれる。わたしを慰める者、わたしを勇気づける者が／わたしから遠く離れたからである。わが子らは敵が勝ったために、わびしい者となった」。

17 シオンは手を伸ばしても、これを慰める者はひとりもない。ヤコブについては、主は命じて、その周囲の者を、これがあだとせられた。エルサレムは彼らの中であって、汚れた物ようになった。

18 「主は正しい、わたしは、み言葉にそむいた。すべての民よ、聞け、わが苦しみを顧みよ。わがおとめらも、わが若人らも捕われて行った。

19 わたしはわが愛する者と呼んだが、彼らはわたしを欺いた。わが祭司および長老たちは、その命をささえようと、食物を求めている間に、町のうちで息絶えた。

20 主よ、顧みてください、わたしは悩み、わがはらわたはわきかえり、わが心臓はわたしの内に転倒しています。わたしは、はなはだしくそむいたからです。外にはつるぎがあつて、わが子を奪い、家の内には死のようなものがある。

21 わたしがどんなに嘆くかを聞いてください。わたしを慰める者はひとりもなく、敵はみなわたしの悩みを聞いて、あなたがこれをなされたのを喜んだ。あなたがさきに告げ知らせたその日をきたらせ、彼らをも、わたしのようになしてください。

22 彼らの悪をことごとくあなたの前にあらわし、さきにわがもろもろのとがのために、わたしに行われたように、彼らにも行ってください。わが嘆きは多く、わが心は弱りはてているからです」。

第2章

あ あ、主は怒りを起し、黒雲をもってシオンの娘をおおわれた。主はイスラエルの栄光を天から地に投げ落とし、その怒りの日に、おのれの足台を心にとめられなかった。

2 主はヤコブのすべてのすまいを／滅ぼして、あわれまず、その怒りによって、ユダの娘のとりでをこわし、これを地に倒して、その国とそのつかさたちをはずかしめられた。

3 主は激しい怒りをもって、イスラエルのすべての力を断ち、敵の前で、おのれの右の手を引きもどし、周囲を焼きつくす燃える火のように、ヤコブを焼かれた。

4 主は敵のように弓を張り、あだのように右の手を伸べて立ち、シオンの娘の天幕におけるわれわれの目に誇る者を、ことごとく殺し、火のようにその怒りを注がれた。

5 主は敵のようになって、イスラエルを滅ぼし、そのすべての宮殿を滅ぼし、そのとりでをこわし、ユダの娘の上に憂いと悲しみとを増し加えられた。

6 主は園の小屋のようにおのれの幕屋を倒し、その祭の場所をこわされた。主は祭と安息日とをシオンに忘れさせ、激しい怒りによって、王と祭司とを捨てられた。

7 主はその祭壇を忌み、その聖所をきらって、もろもろの宮殿の石がきを敵の手に渡された。彼らは祭の日のように、主の宮で声をあげた。

8 主はシオンの娘の城壁を破壊しようと／思い定めて、なわを張り、打ちこわして、その手をひかず、城壁と石がきを悲しませられた。これらは共に衰える。

9 その門は地にうずもれ、主はその貫の木をこわし砕かれた。その王と君たちはもろもろの国民の中におり、もはや律法はなく、またその預言者は主から幻を得ない。

10 シオンの娘の長老たちは地に座して黙し、頭にちりをかぶり、身に荒布をまとった。エルサレムのおとめたちはこうべを地にたれた。

- ¹¹ わが目は涙のためにつぶれ、わがはらわたはわきかえり、わが肝はわが民の娘の滅びのために、地に注ぎ出される。幼な子や乳のみ子が町のちまたに / 息も絶えようとして
いるからである。
- ¹² 彼らが、傷ついた者のように町のちまたで / 息も絶えようとするとき、その母のふと
ころにその命を注ぎ出そうとするとき、母にむかって、「パンとぶどう酒とは / どこに
ありますか」と叫ぶ。
- ¹³ エルサレムの娘よ、わたしは何をあなたに言い、何にあなたを比べることができよう
か。シオンの娘なるおとめよ、わたしは何をもってあなたになぞらえて、あなたを慰め
ることができようか。あなたの破れは海のように大きい、だれがあなたをいやすことが
できようか。
- ¹⁴ あなたの預言者たちはあなたのために / 人を欺く偽りの幻を見た。彼らはあなたの不
義をあらわして / 捕われを免れさせようとはせず、あなたのために人を迷わす偽りの託
宣を見た。
- ¹⁵ すべて道行く人は、あなたにむかって手を打ち、エルサレムの娘にむかって、あざ笑
い、かつ頭を振って言う、「麗しさのきわみ、全地の喜びと / となえられた町はこれな
のか」と。
- ¹⁶ あなたのもろもろの敵は、あなたをののしり、あざ笑い、歯がみして言う、「われわ
れはこれを滅ぼした、ああ、これはわれわれが望んだ日だ、今われわれはこれにあい、
これを見た」と。
- ¹⁷ 主はその計画されたことを行い、警告されたことをなし遂げ、いにしえから命じてお
かれたように、滅ぼして、あわれむことをせず、あなたについて敵を喜ばせ、あなたの
あだの力を高められた。
- ¹⁸ シオンの娘よ、声高らかに主に呼ばわれ、夜も昼も川のように涙を流せ。みずから安
んじることをせず、あなたのひとみを休ませるな。
- ¹⁹ 夜、初更に起きて叫べ。主の前にあなたの心を水のように注ぎ出せ。町のかどで、飢
えて / 息も絶えようとする幼な子の命のために、主にむかって両手をあげよ。
- ²⁰ 主よ、みそなわして、顧みてください。あなたはだれにむかって / このように行われ
たのですか。女は自分の産んだ子、その大事に育てた幼な子を食べるでしょうか。祭司
と預言者が主の聖所で殺されていていいでしょうか。
- ²¹ 老いも若きも、ちまたのちりに伏し、わがおとめも、若人も、つるぎで倒されてし
まった。あなたは、その怒りの日にこれを殺し、これをほふって、あわれむことをされ
なかった。
- ²² あなたは、わたしの恐れるものを、祭の日のように四方から呼び集められた。主の怒
りの日には、のがれた者も残った者もなかった。わたしが、いだき育てた者を / わたし
の敵は滅ぼし尽した。

第 3 章

わたしは彼の怒りのむちによって、悩みにあった人である。

- ² 彼はわたしをかり立てて、光のない暗い中を歩かせ、
- ³ まことにその手をしばしばかえて、ひねもすわたしを攻められた。
- ⁴ 彼はわが肉と皮を衰えさせ、わが骨を砕き、
- ⁵ 苦しみと悩みをもって、わたしを囲み、わたしを閉じこめ、
- ⁶ 遠い昔に死んだ者のように、暗い所に住まわせられた。
- ⁷ 彼はわたしのまわりに、かきをめぐらして、出ることのできないようにし、重い鎖でわ
たしをつながれた。

- 8 わたしは叫んで助けを求めたが、彼はわたしの祈をしりぞけ、
9 切り石をもって、わたしの行く道をふさぎ、わたしの道筋を曲げられた。
10 彼はわたしに対して待ち伏せするくまのように、潜み隠れるししのよう、
11 わが道を離れさせ、わたしを引き裂いて、見るかげもないみじめな者とし、
12 その弓を張って、わたしを矢の的のようにされた。
13 彼はその・の矢を / わたしの心臓に打ち込まれた。
14 わたしはすべての民の物笑いとなり、ひねもす彼らの歌となった。
15 彼はわたしを苦い物で飽かせ、にがよもぎをわたしに飲ませられた。
16 彼は小石をもって、わたしの歯を砕き、灰の中にわたしをころがされた。
17 わが魂は平和を失い、わたしは幸福を忘れた。
18 そこでわたしは言った、「わが栄えはうせ去り、わたしが主に望むところのものもう
せ去った」と。
19 どうか、わが悩みと苦しみ、にがよもぎと胆汁とを心に留めてください。
20 わが魂は絶えずこれを思って、わがうちにうなだれる。
21 しかし、わたしはこの事を心に思い起す。それゆえ、わたしは望みをいだく。
22 主のいつくしみは絶えることがなく、そのあわれみは尽きることがない。
23 これは朝ごとに新しく、あなたの真実は大きい。
24 わが魂は言う、「主はわたしの受くべき分である、それゆえ、わたしは彼を待ち望
む」と。
25 主はおのれを待ち望む者と、おのれを尋ね求める者にむかって恵みふかい。
26 主の救を静かに待ち望むことは、良いことである。
27 人が若い時にくびきを負うことは、良いことである。
28 主がこれを負わせられるとき、ひとりすわって黙しているがよい。
29 口をちりにつけよ、あるいはなお望みがあるであろう。
30 おのれを撃つ者にほおを向け、満ち足りるまでに、はずかしめを受けよ。
31 主はとこしえにこのような人を / 捨てられないからである。
32 彼は悩みを与えられるが、そのいつくしみが豊かなので、またあわれみをたれられ
る。
33 彼は心から人の子を / 苦しめ悩ますことをされないからである。
34 地のすべての捕われ人を足の下に踏みじり、
35 いと高き者の前に人の公義をまげ、
36 人の訴えをくつがえすことは、主のよみせられないことである。
37 主が命じられたのでなければ、だれが命じて、その事の成ったことがあるか。
38 災もさいわいも、いと高き者の口から出るではないか。
39 生ける人はどうしてつぶやかねばならないのか、人は自分の罪の罰せられるのを、つ
ぶやくことができようか。
40 われわれは、自分の行いを調べ、かつ省みて、主に帰ろう。
41 われわれは天にいます神にむかって、手と共に心をもあげよう。
42 「わたしたちは罪を犯し、そむきました、あなたはゆるしになりませんでした。
43 あなたは怒りをもってご自分をおおい、わたしたちを追い攻め、殺して、あわれま
ず、
44 また雲をもってご自分をおおい、祈を通じないようにし、
45 もろもろの民の中に、わたしたちをちりあくたとなさいました。
46 敵はみなわたしたちをののしり、

- 47 恐れと落し穴と、荒廃と滅亡とが、わたしたちに臨みました。
- 48 わが民の娘の滅びによって、わたしの目には涙の川が流れています。
- 49 わが目は絶えず涙を注ぎ出して、やむことなく、
- 50 主が天から見おろして、顧みられる時にまで及ぶでしょう。
- 51 わが目はわが町のすべての娘の最期のゆえに、わたしを痛ませます。
- 52 ゆえなくわたしに敵する者どもによって、わたしは鳥のように追われました。
- 53 彼らは生きているわたしを穴の中に投げ入れ、わたしの上に石を投げつけました。
- 54 水はわたしの頭の上にあふれ、わたしは『断ち滅ぼされた』と言いました。
- 55 主よ、わたしは深い穴からみ名を呼びました。
- 56 あなたはわが声を聞かれました、『わが嘆きと叫びに耳をふさがないでください』。
- 57 わたしがあなたに呼ばわったとき、あなたは近寄って、『恐れるな』と言われました。
- 58 主よ、あなたはわが訴えを取りあげて、わたしの命をあがなわれました。
- 59 主よ、あなたはわたしがこうむった不義を / ごらんになりました。わたしの訴えをおさばきください。
- 60 あなたはわたしに対する彼らの報復と、陰謀とを、ことごとくごらんになりました。
- 61 主よ、あなたはわたしに対する彼らのそしりと、陰謀とを、ことごとく聞かれました。
- 62 立ってわたしに逆らう者どものくちびると、その思いは、ひねもすわたしを攻めています。
- 63 どうか、彼らのすわるをも、立つをも、みそなわしてください。わたしは彼らの歌となっています。
- 64 主よ、彼らの手のわざにしたがって、彼らに報い、
- 65 彼らの心をかたくなにし、あなたののろいを彼らに注いでください。
- 66 主よ、怒りをもって彼らを追い、天が下から彼らを滅ぼしてください」。

第 4 章

あ あ、黄金は光を失い、純金は色を変じ、聖所の石は / すべてのちまたのかどに投げ捨てられた。

2 ああ、精金にも比すべきシオンのいとし子らは、陶器師の手のわざである土の器のようにみなされる。

3 山犬さえも乳ぶさをたれて、その子に乳を飲ませる。ところが、わが民の娘は、荒野のだちょうのように無慈悲になった。

4 乳のみ子の舌はかわいて、上あごに、ひたとつき、幼な子らはパンを求めても、これに与える者がない。

5 うまい物を食べていた者は、落ちぶれて、ちまたにおり、紫の着物で育てられた者も、今は灰だまりの上に伏している。

6 わが民の娘のうけた懲らしめは、ソドムの罰よりも大きかった。ソドムは昔、人の手によらないで、またたくまに滅ぼされたのだ。

7 わが民の君たちは雪よりも清らかに、乳よりも白く、そのからだは、さんごよりも赤く、その姿の美しさはサファイヤのようであった。

8 今はその顔はすすよりも黒く、町の中にいても人に知られず、その皮膚は縮んで骨につき、かわいて枯れ木のようになった。

9 つるぎで殺される者は、飢えて死ぬ者よりもさいわいである。彼らは田畑の産物の欠乏

によって、刺された者のように衰え行くからである。

10 わが民の娘の滅びる時には / 情深い女たちさえも、手ずから自分の子どもを煮て、それを食物とした。

11 主はその憤りをことごとく漏らし、激しい怒りをそそぎ、シオンに火を燃やして、その礎までも焼き払われた。

12 地の王たちも、世の民らもみな、エルサレムの門に、あだや敵が、討ち入ろうとは信じなかった。

13 これはその預言者たちの罪のため、その祭司たちの不義のためであった。彼らは義人の血をその町の中に流した者である。

14 彼らは盲人のように、ちまたにさまよい、血で汚れている。だれもその衣にさわることができない。

15 人々は彼らにむかって、「去れよ、けがらわしい」、「去れよ、去れよ、さわるな」と叫んだので、彼らは逃げ去って放浪者となったが、異邦人の中でも人々は「もうわれわれのうちに / 宿ってはならない」と言った。

16 主はみずから彼らを散らして、再び彼らを顧みず、祭司を尊ばず、長老をいたわれなかった。

17 われわれの目は、むなしく助けを待ち望んで / 疲れ衰えた。われわれは待ち望んだが、救え与え得ない国びとを待ち望んだ。

18 人々がわれわれの歩みをうかがうので、われわれは自分の町の中をも、歩くことができなかった。われわれの終りは近づいた、日は尽きた。われわれの終りが来たからである。

19 われわれを追う者は空のはげたかよりも速く、彼らは山でわれわれを追い立て、野でわれわれを待ち伏せる。

20 われわれが鼻の息とたのんだ者、主に油そそがれた者は、彼らの落とし穴で捕えられた。彼はわれわれが「異邦人の中でも / その陰に生きるであろう」と思った者である。

21 ウズの地に住むエドムの娘よ、喜び楽しめ、あなたにもまた杯がめぐって行く、あなたも酔って裸になる。

22 シオンの娘よ、あなたの不義の罰は終わった。主は重ねてあなたを捕え移されない。エドムの娘よ、主はあなたの不義を罰し、あなたの罪をあらわされる。

第 5 章

主よ、われわれに臨んだ事を / 覚えてください。われわれのはずかしめを顧みてください。

2 われわれの嗣業は他国の人に移り、家は異邦人のものとなった。

3 われわれはみなしごとになって父はなく、母はやもめにひとしい。

4 われわれは金を出して水を飲み、価を払って、たきぎを獲なければならない。

5 われわれは首にくびきをかけられて追い使われ、疲れても休むことができない。

6 われわれは足りるだけの食物を獲るために、エジプトおよびアッスリヤに手をさし伸べた。

7 われわれの先祖は罪を犯して、すでに世になく、われわれはその不義の責めを負っている。

8 奴隷であった者がわれわれを治めるが、われわれをその手から救い出す者がいない。

9 われわれは荒野のつるぎのゆえに、おのが命をかけて食物を獲る。

10 われわれの皮膚は飢餓の激しい熱のために、炉のように熱い。

11 女たちはシオンで犯され、おとめたちはユダの町々で汚された。

- 12 君たる者も彼らの手でつるされ、長老たちも尊ばれず、
- 13 若者たちは、ひきうすをになわせられ、わらべたちは、たきぎを負って、よろめき、
- 14 長老たちは門に集まることをやめ、若者たちはその音楽を廃した。
- 15 われわれの心の喜びはやみ、踊りは悲しみに変り、
- 16 われわれの冠はこうべから落ちた。わざわざいなるかな、われわれは罪を犯したからである。
- 17 このために、われわれの心は衰え、これらの事のために、われわれの目はくらくなった。
- 18 シオンの山は荒れはて、山犬がその上を歩いているからである。
- 19 しかし主よ、あなたはとこしえに続べ治められる。あなたの、み位は世々絶えることがない。
- 20 なぜ、あなたはわれわれをながく忘れ、われわれを久しく捨ておかれるのですか。
- 21 主よ、あなたに帰らせてください、われわれは帰ります。われわれの日を新たにしていにしえの日のようにしてください。
- 22 あなたは全くわれわれを捨てられたのですか、はなはだしく怒っていられるのですか。

For other languages please go to www.wordproject.org